

齋藤眞教授の古稀をお祝いして

新 津 晃 一
社会科学研究所長

アメリカ政治史および外交史を中心としてわが国のアメリカ研究の発展に多大な貢献を果たされてきた齋藤眞教授は1991年2月15日をもって古稀を迎えられました。社会科学研究所の所員を中心とする本学の有志が集い、先生の業績をたたえ、ここに古稀を記念する特集号を上梓することが出来ましたことを心から喜びとするものです。

先生は1942年東京帝国大学法学部を卒業された後同年同学部助手、1950年同学部助教授、1959年教授に就任されました。1972-74年には法学部長を務めておられます。1981年東京大学退官後、本学教養学部社会科学科教授として着任され、1986年には本学大学院行政学研究科大学院教授になりました。またこれまで本学では図書館長、平和研究所長も務められました。

先生の専門領域は上述のごとくアメリカ政治史および外交史であります。その研究の特質をなすものは、思想と風土、理念と事実との緊張あふれるダイナミクスに基づきながら、アメリカ史の「文脈のないし構造的な理解」を目指しているところにあります。200年余いわば同一の体制を維持してきたアメリカ社会とその政治は、アメリカ史全体の文脈においてこそ、よりよく理解できるとの方法上の前提があります。そしてこのアメリカ史の「文脈的理解」の核心には、その政治文化の特質を「同質と異質との緊張と統合」として捉える視点があると思います。また政治史や外交史のみならず、広くアメリカ社会全般に目配りをされておられたことは著作目録からも明らかな通りです。単著としては、『アメリカ外交の論理と現実』東大

出版会1962年、『アメリカ政治外交史』東大出版会1975年、『アメリカ現代史』（世界現代史第32巻）山川出版社1976年、『アメリカ史の文脈』岩波書店1981年などが出版されていますが、その他多くの共著、編書、監修書、論文等があることは言うまでもありません。このように先生はわが国におけるアメリカ研究と政治学の発展に中心的な役割を果たされ、1978-80年には国家学会理事長、1980-82年にはアメリカ学会会長の要職を務められました。1989年にはそうしたわが国における学術的貢献が認められ日本学士院会員に選出されておられます。

先生が古稀を迎えられるということは本学教授としての職を本年3月末日を持って退任されることを意味することでもあり、これまで先生と共に過ごしてきた日々が走馬灯のように脳裏を横ぎります。本学における先生の明解で常にユーモアをまじえた講義は、多くの学部学生、大学院生を魅了してきました。また社会科学研究所内には所員のみならず、アメリカ研究に関心を持つ学徒が集い、「アメリカ研究会」が結成され今日に至っております。こうした先生による指導の成果は必ずや近い将来若い研究者を生み出すことになるものと思われれます。又、一方で、先生は教授会、学科会議、所員会議等で議論にゆきづまった時、ズバリ核心をつき、良きまとめ役をはたしてこられました。議論があらゆる方向に発展した際などには歯に衣を着せぬ率直さで、思いやりの中にも厳しく戒められることもありました。

目下、先生はご自身の学問の集大成としてアメリカ建国史研究、アメリカ現代史研究、アメリカ外交史研究の三部作にとりかかっておられると聞きます。私共は先生の御研究のさらなる展開に心からなる期待を寄せるものであります。

先生には、4月以降も私共社会科学研究所の顧問として、また本学平和研究所の客員研究員として御協力いただけることとなっております。ますます御自愛御加養の上、これまでに変わらぬ御指導、御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。